

きずな

2008年 5月22日

NO 698

赤旗井原出張所

井原市井原町103 (TEL 62-6200)

2,072柱の戦没者を

しめやかに追悼

20日午前10時から、井原市民会館で「平成20年度井原市戦没者追悼式」が、遺族525人の参加の中で無宗教形式で厳粛に行われました。

瀧本井原市長の主催者を代表した式辞や高田井原市議会議長ら来賓の追悼のことばのあと、参加者全員が菊を献花(写真)して戦没者を追悼しました。



地区別戦没者数及び平成20年度追悼式参加連絡者数

地区名	井原	高屋	大江	稲倉	県主	木之子	荏原	西江原	青野	野上	美星	芳井	個人	計
戦没者(柱)	345	120	64	90	87	107	121	140	63	65	456	407	7	2,072
参加連絡者(名)	85	31	21	33	17	23	28	36	25	28	95	117	7	546

*当日参加者525名 *井原地区には出部地区を含む



岡川さん 切り絵の個展開く

多くの方に知ってもらいたくて

13日から18日まで井原町の市民ギャラリーで井原市上出部町の岡川絹江さんの切り絵の個展(写真:左が岡川さん)が開かれました。

岡川さんは、6月1日に70歳になりますが、それを記念して初めての個展を開きました。会場には縦1寸の大作などを含め33点がずらりと展示されており圧巻です。

筆者がお邪魔したときちょうど岡川さん本人が居られ「一人でも多くの方に切り絵を知っていただきたい」「海外へ行ったときには、旅を楽しむと同時に、切り絵になるような構図もたえず頭に描きながら観ている」「完成するまでで、絵を切っている時の心の変化も微妙で楽しい」「最近では白黒だけでなく、色を入れる傾向が強くなってきており、殆ど色を入れている」「個展はこれが最初で最後かも・・・」などなどいろいろ説明もしていただきました。

読者ニュース「きずな」に対するご意見や情報をしんぶん赤旗の配達・集金者にどしどしお寄せください。

現在、井原市ではごみの排出量を減らすためという理由で、家庭ごみを有料化する方向で検討されています。しかし、有料化した自治体では、2年～3年は減量するけれども、その後は有料化以前の量以上になったという自治体が殆どです。果たして有料化することがごみを減量するための最適な方法なのでしょうか。

下の記事はしんぶん赤旗の読者の質問に、日本共産党が答えたものです。読者の皆さん、ごみの減量についていっしょに考えてみましょう。

ごみ有料化でごみの量はどうなる？

〈問い〉 家庭ごみを有料化する自治体が出てきていますが、有料化した地域のごみ量はどうなっているのですか。(石川・一読者)

〈答え〉 多くの自治体では、家庭ごみ有料化の際、「ごみの減量化を図る」、「住民のごみに対する自覚を高める」といったことが掲げられてきました。しかし、実際に有料化された地域のその後のごみ量を見ていくと、いったんは減っても、数年後には有料化前よりも増えてしまったり、減るには減ったが微増に転じて、このままでは元にもどってしまいそうだという地域が少なくありません。

中国地方のA市では、95年に有料化しました。駆け込みで増えた前年度をさげ、2年前の93年とのごみ量を比べると、一日あたり76トンから65トンへと11トン減、14%の排出抑制となりましたが、その後は増加に転じ、98年には77トンと、3年で元に戻っています。

家庭ごみの有料化は、実施直後には減るものの、時間がたつとその効果は薄れ、ごみ減量の決め手にはなっていないということです。



92年に有料化した中部地方のB市では、90年一日あたり80トンから92年の72トンへと8トン(10%)減量しましたが、翌年からはA市と同様に増加し始め、95年には80トンに達しました。しかし、B市は、97年から資源回収に取り組んで、2000年には、77トンに戻っています。資源化に取り組む中で、一度増えはじめたごみ量を減らし、10年前の排出量に抑制しました。

資源化・分別収集の拡充に取り組んだ自治体では、ごみそのものの排出を減らしています。細かい分別収集は住民の理解と協力なしに進められませんが、取り組みが進んでいる地域ではごみ問題への住民の関心が高まり、行政に対しても、意見や提案が活発に寄せられています。

ごみを元から減らすには、住民自身の自発的な参加がなければできませんし、行政と住民が協力して取り組むことが大切です。

井原市政に対するご意見・ご要望をお寄せください。

6月9日(月)が井原市議会6月定例会の開会予定日です。この議会に向け、現在、皆様の声を聞きながら質問の準備をしています。

皆様のご意見・ご要望が1つでも多く実現するよう奮闘したいと考えています。皆様の井原市政に対するご意見・ご要望をお近くの党員か下記の電話・FAXにお気軽にお寄せください。

日本共産党後援会事務所	TEL 62-6200	FAX 62-6209
森本ふみお宅	TEL 62-6061	FAX 62-6081
石井 敏夫宅	TEL 62-4667	FAX 62-4726